

平成29年度第1回 高松市立病院を良くする会 会議録

開催日時：平成29年7月11日（火）15：00～17：20

場 所：高松市民病院 西会議室

【出席者】

- (委員) 神内 仁（一般社団法人高松市医師会 会長）
谷田 一久（株式会社ホスピタルマネジメント研究所 代表）
中村 明美（公益社団法人香川県看護協会 会長）
二島 多恵（公募委員 香川がん患者おしゃべり会 代表）
藤田 徳子（株式会社フェアリー・テイル 代表取締役）
吉田 静子（高松市婦人団体連絡協議会 副会長）
和田 頼知（有限責任監査法人トーマツ 公認会計士）
- (事務局) 市職員29名

開会 15：00～

1 病院事業管理者挨拶

本日は、各病院長及び、診療所長から平成28年度実績と平成29年度の目標を、また経営企画課から平成28年度の決算概要を報告し、最後に新病院整備状況を説明する予定としている。

新病院の名称については公募の結果、「高松市立みんなの病院」に決定しており、新病院に向けて良いスタートが切れるよう、29年度を勝負の年として、気持ちを引き締めて、経営的にも医療的にもレベルアップしたいという思いで職員一丸となって取り組んでいるところである。28年度の厳しい経営状況、またそれを踏まえた29年度の目標を聞いていただいた上で、委員の皆様方から御意見をいただき、我々の基本理念である「生きる力を応援します」の実現に、一步でも近づけるような会になればと思っているので、よろしくお願いしたい。

2 会長・副会長の選任について

高松市立病院を良くする会設置要綱第4条第1項に基づいて、会長を互選。副会長は会長指名。

会長 互選結果 : 谷田委員

副会長 会長指名 : 神内委員

(会長)

良くする会も回数を重ね、いよいよ新病院の開院を来年度に控える時期となった。

新病院がますます良いものとなるよう、委員それぞれの専門の立場から、忌憚のない御意見をいただきたい。

なお、この会は公開であり、本日は3名の方が傍聴している。また、会議録については、要約した発言内容を市のホームページに掲載することとしている。

それでは、高松市病院事業経営健全化計画の具体的取組状況について、平成28年度実績報告を市民病院からお願いしたい。

3 議事

(1) 高松市病院事業経営健全化計画【平成27年度～平成29年度】の具体的取組状況について（平成28年度実績）について

(ア) 高松市民病院

高松市民病院院長 説明

(資料：経営健全化計画の重点取組状況 平成28年度実績と29年度目標)

(会長)

救急車受入拒否率が目標の22%に対し、実績は31%で、目標の約1.5倍を拒否していることになるが、理由はこういったところにあるか。

(市民病院副院長)

時間内の拒否率はさほど高くないものの、夜間の受入拒否率が高くなった。要因としては、マンパワー不足のため、専門外の患者を受け入れられないことにあった。

今年度は医師が増えたことにより、5月までの拒否率は時間外と時間内を合わせて21%となり、大きく改善している。時間内の拒否率を0%に近づけられるよう努めているところである。

(副会長)

救急患者の状況については、他病院に比べて、限られた人員の中で、よく頑張っていると思う。「受入拒否」という言葉が誤解を招きかねないので、「受入困難」などとした方がよいかもしれない。

(委員)

経営状況と常勤医師数との関係について、平成24年及び25年の黒字の時は常勤医師数が45名となっている。平成29年度は43名とのことだが、医師数に呼応して、ある程度黒字が見えてくるものなのだろうか。

(市民病院院長)

確かに昨年度は医師が不足しており、マンパワー不足が経営状況の悪化を招いた要因の一つであることは間違いないが、周辺医療機関の新築や移転により、外部環境が変化してきており、単に医師数が増えたからと言って、平成24年や25年のように即黒字となることは難しいと考えている。

(委員)

地域包括ケア病棟の試行期間が始まっているようだが、病床数は何床か。

(市民病院院長)

40床である。10月からの本格稼働を目指して取り組んでいるところである。新病院では、地域包括ケア病棟は44床とする予定である。

(会長)

地域包括ケアシステム推進の観点から、地域包括ケア病棟開設に当たっては在宅医療や開業医との連携を強く意識したものであると思うが、開業医からの紹介についてはどの程度想定しているか。

(高松市民病院院長)

現時点では、主に急性期経過後から退院までの、いわゆるポストアキュートの患者を受け入れることを想定している。地域包括ケア病棟の運用を開始し、ある程度軌道に乗ってきた段階で、地域医療機関からの患者を受け入れることを考えている。

(会長)

地域包括ケア病棟が本格稼働した際には、医師会をはじめとする関係機関との連携を図りながら、運用を進めていただきたい。

特に発言がなければ、次に塩江分院からお願いしたい。

(イ) 高松市民病院塩江分院

塩江分院院長 説明

(資料：経営健全化計画の重点取組状況 平成28年度実績と29年度目標)

(委員)

平成27年度と比較して、平成28年度は純利益が約2,000万円、経常収支が1,000万円ほどそれぞれ悪化しているが、病院機能が維持できていると言えるのだろうか。

(会長)

収益では、医業収益はほぼ横ばいで、医業外収益が約2,000万円減少している。一方、費用面ではジェネリック医薬品の推進等により、医業費用は減少しており、医業についてのみ言えば、むしろ改善しているともいえるのではないだろうか。

(会長)

地震や豪雨など各地で災害が起こっているが、塩江分院の災害への備えは十分なされているのだろうか。災害時に地域住民をサポートできるよう、備蓄物資の準備についても検討していただきたい。

(委員)

塩江分院の今後の在り方として、塩江町だけでなく、香川町や徳島県境の方まで幅広く利用される病院を目指しつつ、高松市内の急性期病院からの受入れも進めていきたいと考えているのか。

(塩江分院院長)

その通りである。人口減少が進む中で、医療区分2・3の割合を維持するには塩江地区以外からの患者や急性期病院からの受入れが必要と考えている。

(病院事業管理者)

塩江地区の人口は約2,800人で、塩江分院の病床は87床あるが、入院患者の地域別の割合としては、塩江町内の方が約55%、残りの45%が香南町、香川、三木、徳島県境の方となっている。

塩江分院では地域まるごと医療を目標に掲げ、地域に根差した医療の提供に努めている。塩江地区で亡くなる方のうち、6割が塩江分院で最期を迎えているが、住民の半数以上が塩江分院で亡くなっ

ていることから、塩江町においてはある程度、最期まで看るといふ地域まるごと医療の役割を果たせているのではないかと感じている。今後、看取りの患者の割合をさらに増やし、8割程度にすることを目標としている。現在、自宅での看取りをサポートした患者が年間3～4人ほどいるが、この割合を増やすことで、看取りの患者の割合を8割に近づけるのではないかと考えている。

また、在宅患者へのサポートとして、塩江分院では医師、看護師、薬剤師はもちろんのこと、栄養士や理学療法士、放射線技師まで幅広い職種が訪問看護を行っているが、これは全国的に見ても珍しく、地域まるごと医療のモデル的な取組が出来ていると思っている。

経営面について言えば、塩江分院は存在そのものが不採算であると考えており、経済性を全面的に求めるべきではないと思うが、経営基盤の強化は決しておろそかにできない重要なことであることも認識しながら、地域まるごと医療を実践していく必要がある。

人口減少や国による療養病床の見直しが進められる中で、現在の病床数87床の妥当性や市外や県外からの患者の受入れについては今後検討の余地があるものの、「生きる力を応援します」の基本理念の実現に向けて、塩江分院では「地域まるごと医療」という形で順調に取組が進められていると感じている。

(委員)

立地上、公共性を求めにくい塩江分院であるからこそ、市内中心部に住んでいても、最期はここで過ごしたいと思えるような、幸せな賑わいづくり、行きたくなる場所となるようなソフト性の構築が今後必要なのではないか。

(委員)

香川県内で訪問看護の取組は進みつつあるものの、全国的に見れば遅れている状況である。高松市内に関して言えば、旧市内での取組が集中しているのが現状である。こうした状況の中、塩江分院の取組は非常に進んでおり、良い取組であるので、ぜひ続けていただきたいが、辺境地で訪問看護に取り組むことが経済的に難しい面もあり、何か支援体制があればと思う。

(会長)

特に発言がなければ、次に香川診療所からお願いしたい。

(ウ) 高松市民病院附属香川診療所

香川診療所 所長 説明

(資料：経営健全化計画の重点取組状況 平成28年度実績と29年度目標)

(委員)

地元でも健康教室を実施していただき、多くの方が集まり、感謝している。市民目線に立った、分かりやすい内容が参加者からも好評だった。高松市内には各地区に保健委員会があり、健康教室の需要はますます広がるのではないだろうか。

大変良い取組であるので、香川診療所の取組を新病院でも続けていただきたい。

(病院事業管理者)

香川診療所が積極的に行っている健康教室の実施による外部への情報発信や、利用者が4,000人近

くなる「私のカルテ」の取組は全国的に見ても誇れるものだと思っている。香川診療所で培われた取組は新病院へ引き継ぎ、継続的に取り組んでいきたいと考えている。

(会長)

特に発言がなければ、次に、平成28年度病院事業会計決算概要について、経営企画課からお願いしたい。

(2) 平成28年度病院事業会計決算概要について

経営企画課長 説明

(資料：平成28年度高松市病院事業決算の概要について)

(会長)

年次決算の推移のグラフの中で、平成28年度末の現金残高がマイナスとなっているが、これは一般会計からの長期借入金を含めていないためである。しかし、見方によっては、資金不足に陥り、支払に遅延が生じているとの誤解を招きかねないので、説明する際には注意していただきたい。

(3) 新病院整備状況について

病院局次長 説明

(資料：高松市新病院整備について)

(会長)

本日の説明を踏まえて、委員の方々には委員評価表に御記入の上、事務局まで御提出いただきたい。

また、次年度以降の経営健全化計画については、素案が固まり次第、良くする会で報告する予定としているので、報告の際には委員の皆様からご意見をいただきたい。

以上で、平成29年度第1回の高松市立病院を良くする会を閉会する。

閉会 ～17:20